

No. 1375

郷土芸能祭

— 愛知・名古屋 —

旅と宿のフェスティバル、郷土芸能祭が愛知県名古屋市で5月18日から3日間行われました。この祭は旅館連盟全国大会が名古屋市で開かれたのにちなんで催されたもので全国各地の郷土芸能が披露されました。中部地区からは三重県の尾鷲節、南知多大鯛まつりなど4つの郷土芸能が参加、おなじみの郡上おどりは2日目の19日に登場しました。次から次へと繰り広げられる郷土芸能の数々に集まった見物客はふるさとの香りを心ゆくまで満喫していました。名古屋テレビ塔の下ではミニ機関車が客車3両を引っばって旅のムードを盛り上げます。国鉄が企画した特別参加のこのミニSL、ちびっ子たちの人気を集めていました。80年代は自分で旅を演出する時代だとか。あなたもひとつ計画してはいかがですか。

衆院解散、総選挙へ

— 大平内閣不信任案を可決 —

5月16日、衆院本会議場。内閣不信任案を提出した社会党の飛鳥田委員長。

「大平内閣は自からの失敗した経済政策のつけを国民におしつけ、福祉は大幅に後退した。浜田問題やKDD問題は政治的、道義的責任は重大で、議会制民主主義を踏みこむものだ。」反対の立場から自民党の大野明氏は

「国民の信頼も得られず、資質も能力もないものが、内閣不信任案を提出したのは参院選向けの党利党略である。」しかし、採決の結果は福田、三木、中川グループが席したため、243対187の大差で可決。あれよ、あれよという間のでき事だった。

民社党の佐々木委員長は「内閣の不信任案をセレモニーの如く扱う。民社党だけが一番心配した。」

福田、三木、中川の三氏は連絡会議を設置。新党結成で注目される。記者会見に臨んだ大平首相は、「内閣不信任案が通れば内閣の総辞職か、解散かの二つの道があるが、総辞職の理由はないし、迷わず解散に踏み切った。」

国民には不可解な政局の急変、初の衆参同日の投票日に国民はどう審判を下すか。